181225

山陰中央新報

李承晩ライン 漁場確保が目的

姫路高の藤井教諭講演 「竹島」と別議論を

「李承晩ライン」について「漁業問題が背景にある」と主張する藤井教諭

日韓の漁業問題に詳しい姫路市立姫路高校の藤井賢二教諭(51)の講演が二十三日、浜田市野原町の県立大であり、韓国が竹島（韓国名・独島）を実効支配する発端となった「李承晩ライン」について、藤井教諭は「遠洋漁業の漁場確保が、ラインを引いた主目的」と解説。「竹島問題と混同することなく、漁業問題として考えることが大切」と訴えた。

藤井教諭は、韓国が一九五二年に公海上に一方的に引いて、竹島をその内に含めた同ラインについて、「東シナ海や黄海の好漁場を囲い込むことが目的」と指摘。漁獲能力の高い日本漁船の漁区拡大への懸念が、背景にあったとした。

竹島の領有権については、前年に調印されたサンフランシスコ講和条約で日本が放棄する領土に竹島が含まれていなかったため、漁場確保とともに領有権主張の狙いもあって「当時は好漁場でもなかった竹島をライン内に入れた」と説明。あくまでも発端は漁業問題であるとの見解を示した。

講演は同大の研究員や院生ら三十二人が傍聴。研究員からは「李承晩ラインの背景が分かり、違った視点から日韓関係を見ることができそう」との感想があった。

県立大